



挑んだ先に見えるもの

険しい道を踏みしめて1歩1歩登る。息が上がってもしんどくても、ただ次の1歩を黙々と出す。やがて樹林帯が終わり、頂を臨む道へ。別世界の眺望が広がり、何度登っても胸を打たれる。頂に立てば、今までの道のりがこの瞬間につながっていたのだと感謝する。挑んだ先に見えるのは、まだ終着点ではない。きっと次に目指す場所だ。

目次 CONTENTS

- 2-3 百名山踏破の久さんと金峰山に登ってみた!
- 4 ドラムサークル授業@川上中学校
- 5 もう一度知ろう、踊ろう 川上小唄
パイプオルガンの時報
- 6-7 教育委員会だより ニューフェイス
第二小学校六年生 大根売りしました!
- 8 深掘り 大深山遺跡 そうざら源ジイ
公民館の動き 戸籍の窓口 一喜一憂
お知らせ



祝

百名山踏破の久さんと金峰山に登ってみた!

日本百名山を踏破した由井久さん(天深山)に「一緒に登ってください!」とお願いして実現した金峰山登山。その道中やいかに!? (写真/中島樹 文/赤堀公子)

集合時間は朝5時。廻り目平キャンプ場の一番上にある車止めからスタートし、金峰山川沿いの林道を歩く。2019年の台風災害の爪痕がまだ残る場所もあるが、濃さを増す木々の緑と澄んだ川の流れが美しい。歩きながら、百名山の話何う。

すべての始まりは

健診だった!

久さんは、昭和26年8月生まれの73歳。登山を始めたのは49歳ごろ。43歳のとき健康診断で、「糖尿病の境界で、このまま何もしないと大変なことになる」と言われて運動を始めた。日々歩いたり、薙崎の強歩大会に出場したり。ひよんなことから山に登って、その魅力に取り憑かれた。仕事をしている間は日帰りで山に行き、百名山のうちの半分くらいを踏破した。退職して時間ができてから、遠くの山にも出かけるようになった。

百名山を踏破したのは2023年11月。屋久島の宮之浦岳、鹿児島島の開聞岳、そして最後の霧島の3座を巡った。「登りきったときは、それほど感動したわけではなかった」と振り返る久さん。しばらくしてから「ああ、百の頂を登ったんだな。がんばったよなあ」と感慨深く思い返すようになったという。

金峰山小屋で元気をチャージ



小屋の上のテラスからの絶景をフワッフワのパンケーキと共に。



金峰山小屋の吉木さんと。2人はトレイルングループ仲間なのだとか。

ゼイゼイ、ハーハー 登山道

林道を進むこと1時間、金峰山川を渡って、いよいよ登山道に入る。初心者のペースに合わせるのが複数で登るときのお約束なので、わたしが

先頭を歩く。つづら折れの急斜面に、息は上がるが脚は上がらない。ストックをつきながら、とにかく次の一歩を出すのに精一杯。久さんは息を切らすこともなく、着々と歩みを進める。

安全&やる気の出る標識 by吉木さん



登山道のあちこちに標識がつけられている。金峰山小屋の吉木真一さん(居倉在住)によるものだ。安全な登山ができるよう、登山道の整備も行う。

急登もなんのその



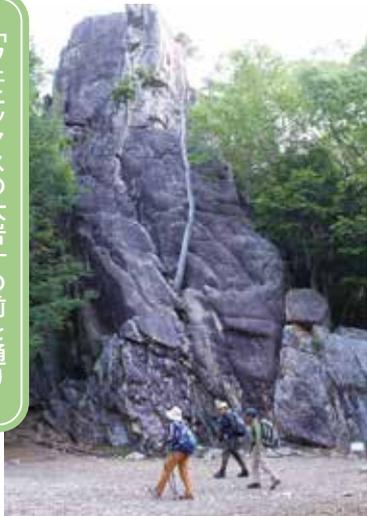
ここから登山道に



林道を歩くこと1時間

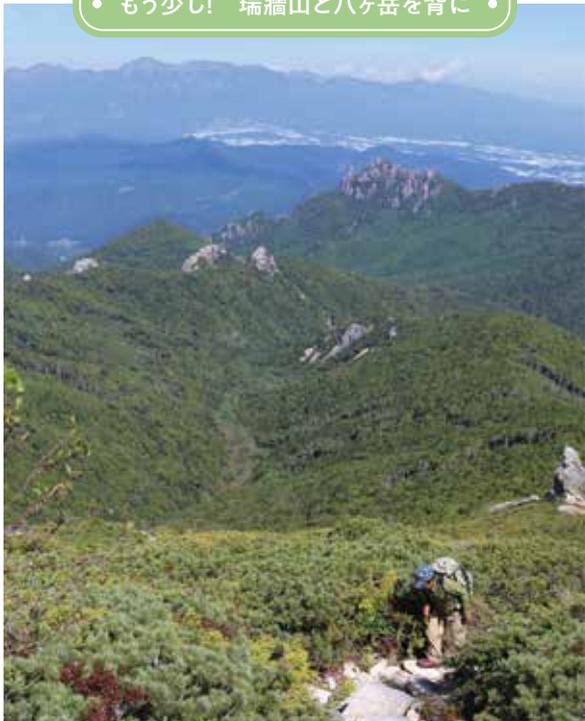


「フェニックスの大岩」の前を通り

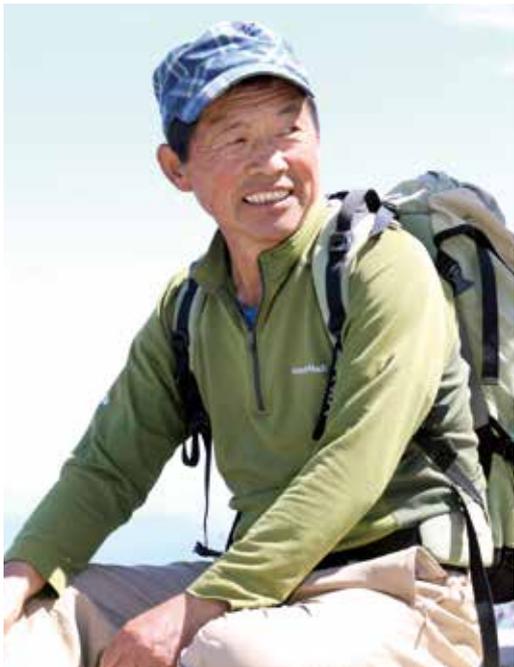


6/8

もう少し! 瑞牆山と八ヶ岳を背に



ついに山頂へ



山頂は360°

大パノラマ



そして、ついに山頂へ。山頂標木周辺は混み合うが、五丈岩の周りには平らな広い場所があり、多くの登山者が休憩したり、お弁当を広げたりしている。瑞牆山から八ヶ岳、富士山や南アルプス、秩父の山々など、ぐるりと見渡せる。絶景かな、絶景かな。久さんは年に2度はこの頂に立ち、八ヶ岳にはもつと頻繁に登るそう。すごいなあ。

やったー!

空が見える!

休み休み2時間くらい登っただろうが、樹林帯が切れ青い空と金峰山小屋が見えた。ここは料理の美味しい山小屋として有名だ。パンケーキを作っていた。これがフワフワでおいしい! 吉木さんが淹れてくれたコーヒーも絶品。ああ、なんとという幸せ。元気をチャージして、山頂を目指す。ハイマツの間の、ゴツゴツした岩の登山道を、手も足も使いながら登る。そんな道も軽々と登っていく久さん、かっこいいです!



大日岩から瑞牆山を臨む



大日岩を拜んで下山

帰りは登ってきた道ではなく、尾根伝いに進み大日岩を通るルートで下山する。アップダウンがあり楽ではないが、眺めは最高だ。たっさんの登山者と細い道を譲り合いながらすれ違う。大日岩は思わず拝みたくなる大きな岩で迫力満点。ここで昼食をとり、山行も終盤を迎える。下りは膝に衝撃を受けないように、ストックで体重を支えながら下りる。が、下り切るころには、明日の筋肉痛は決定的だ。久さんは2日前にも八ヶ岳の赤岳から横岳、硫黄岳を回ってきたという。きつと、ゆっくりなわたしたちに合わせられるよう、調整してくださったに違いない。「まだまだ行きたい山もあるし、こんなに楽しいことに出会えたのだから、病気に感謝したいくらいだね」と語る久さん。今回は一緒にできて本当によかったです!

